

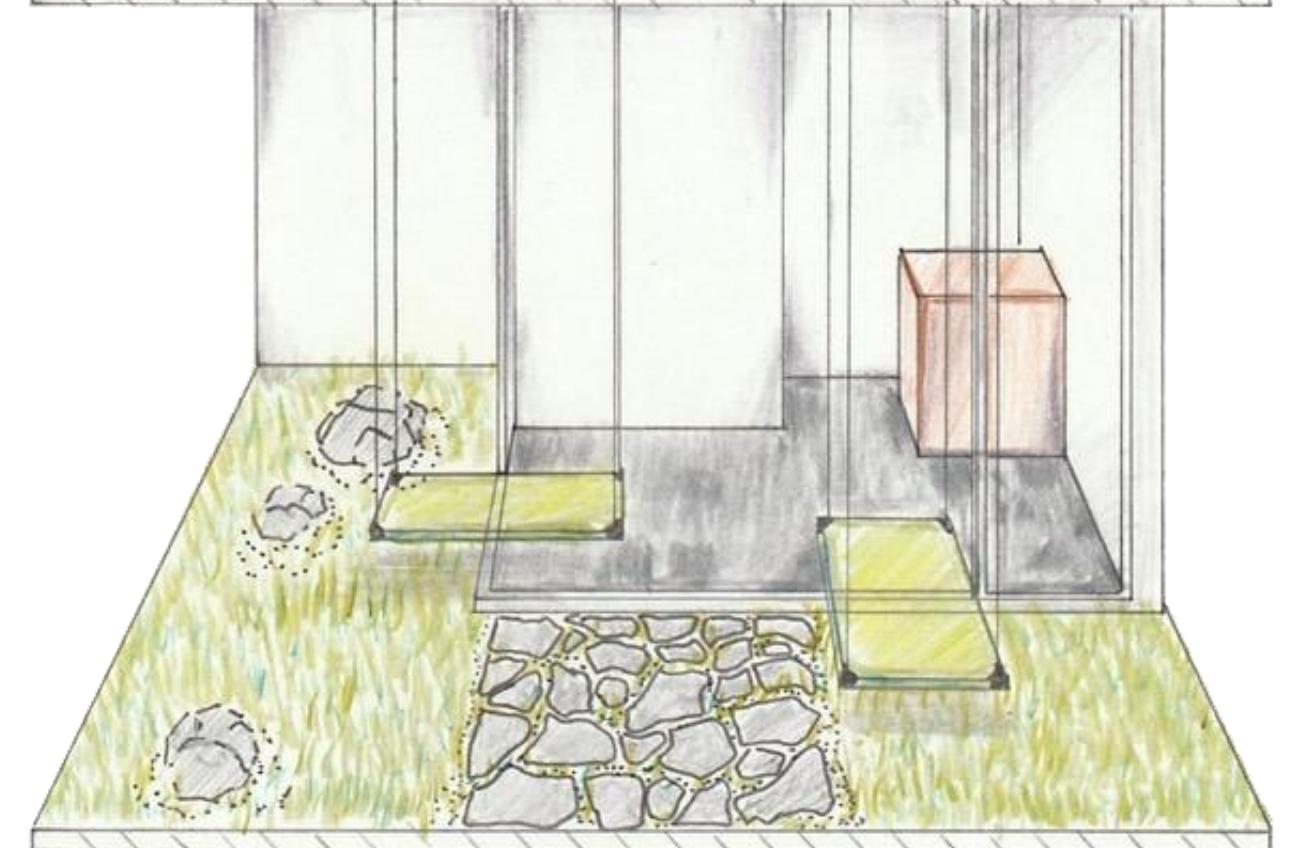
つり畳のくつ家



3F: 寝室・個人室
吹き抜けを上がって、
目の前に存在する縦長の
空間は、畳が吊られる
ことで、和の空間へと
変貌する。

2F: LDK+水回り
掘りごたつを連想させる
リビングを囲うような
段差と、吊り畠によって
生まれる高低差が、洋室に
新しい和の風を吹かせる。

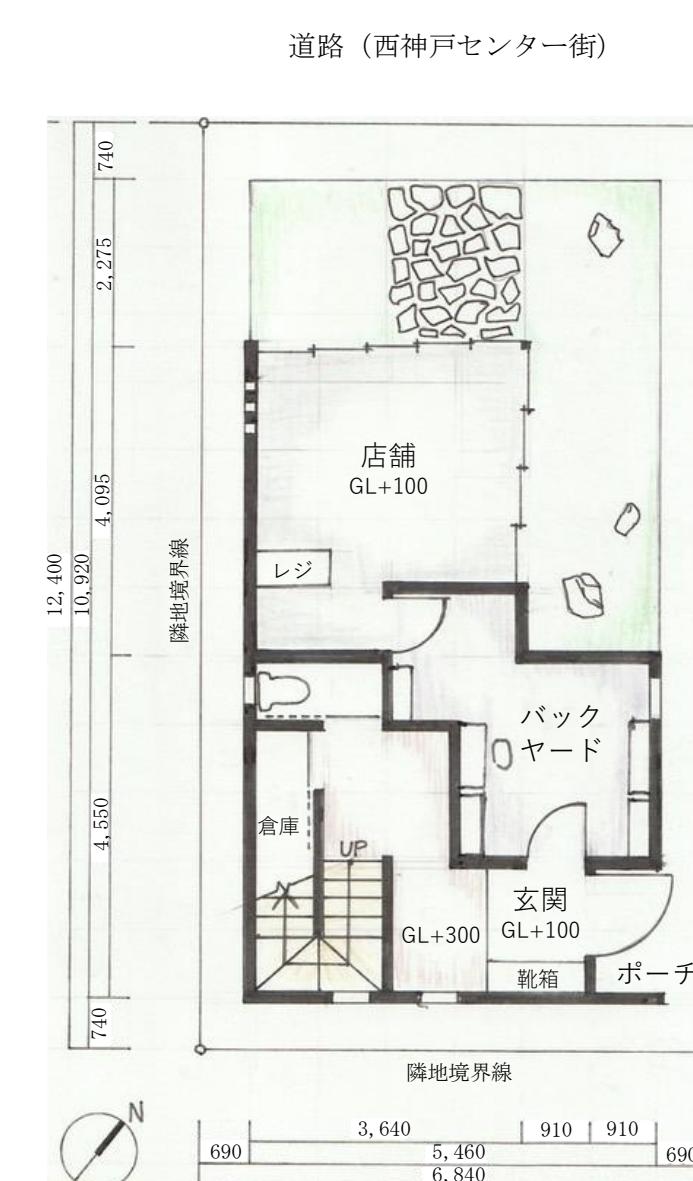
1F: 店舗
道路側に開かれた緑地は、
アウトドアシューズなどの
試用に適しており、吊り畠を
用いて場所に縛られず、
靴の着脱が快適にできる。



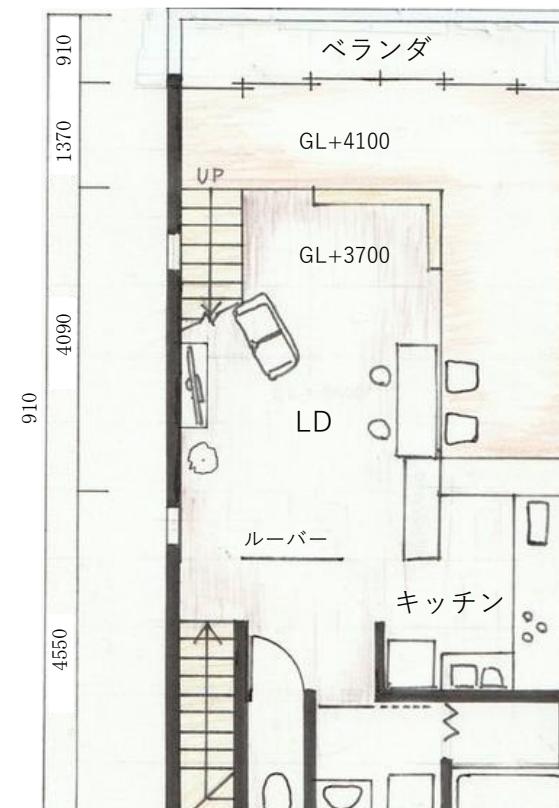
断面パース

住人		
夫	42	靴屋
妻	39	靴屋
息子	13	中学生
息子	7	小学生

面積表		
敷地面積	84m ²	
建築面積	60m ²	
1階床面積	31m ²	
2階床面積	54m ²	
3階床面積	57m ²	
延床面積	139m ²	



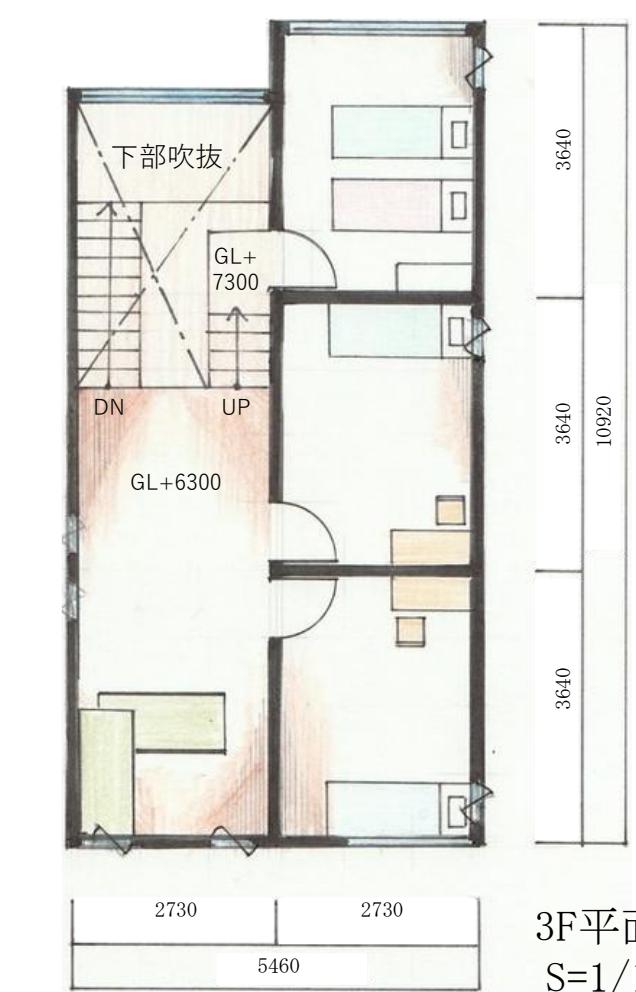
西神戸センター街



道路

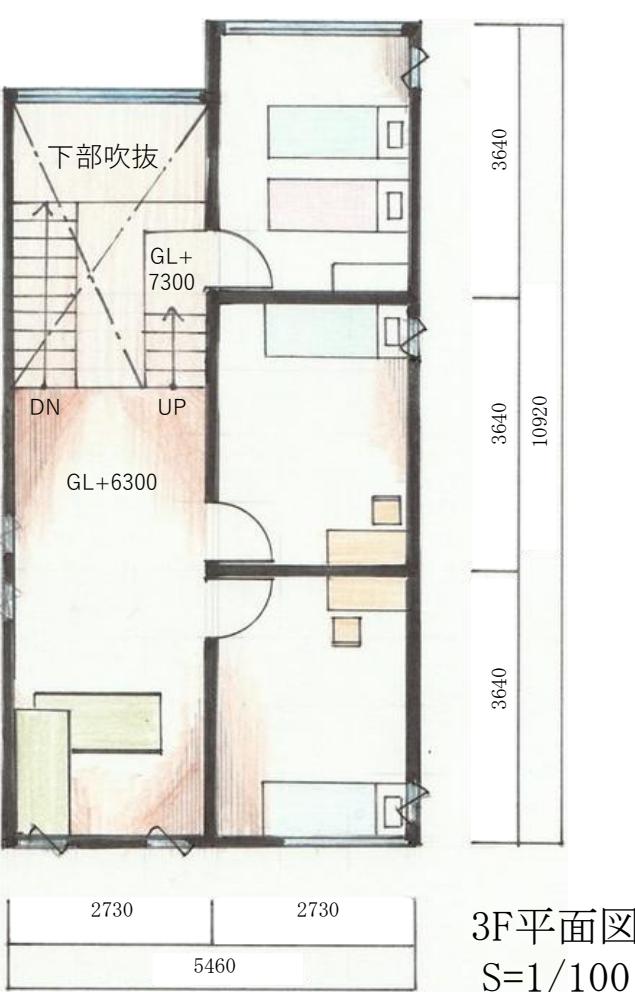
1F平面図兼配置図

S=1/100



2F平面図

S=1/100



3F平面図

S=1/100

周辺地域・長田区の課題

長田区は1995年の阪神・淡路大震災で大きな被害を受けた。その後の再開発の一環で区画整理や商業施設の建設が行われたが、人口減少と高齢化は止まらず、空き家率上昇や事業所の減少も続いている。他の課題としては、緑の面積の少なさが挙げられる。区域中の緑被率は29.3% (H17年) で市内全区中最下位である。

主な産業としては靴の生産があり、ケミカルシューズが盛んに生産されている。

対象とした敷地は、長田区の中心地にも近い西神戸センター街の端にある。この商店街では現在も数軒の店舗が営業を続けているが、空き店舗が多く、近隣の商店街とは対象的に昼間でも通行人は少ない。



商店街の内部。上から敷地側、新長田駅側、営業中の店舗。シャッターが下りている店が多い。営業中の店舗は片手に数えるほどだった。



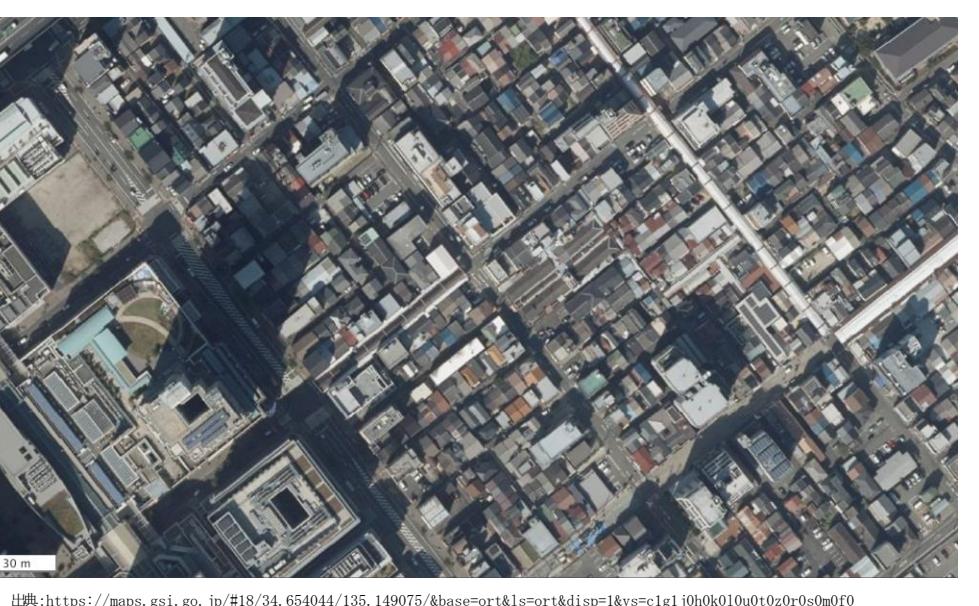
周辺地図 S=1/5000

出典：国土地理院基盤地図情報

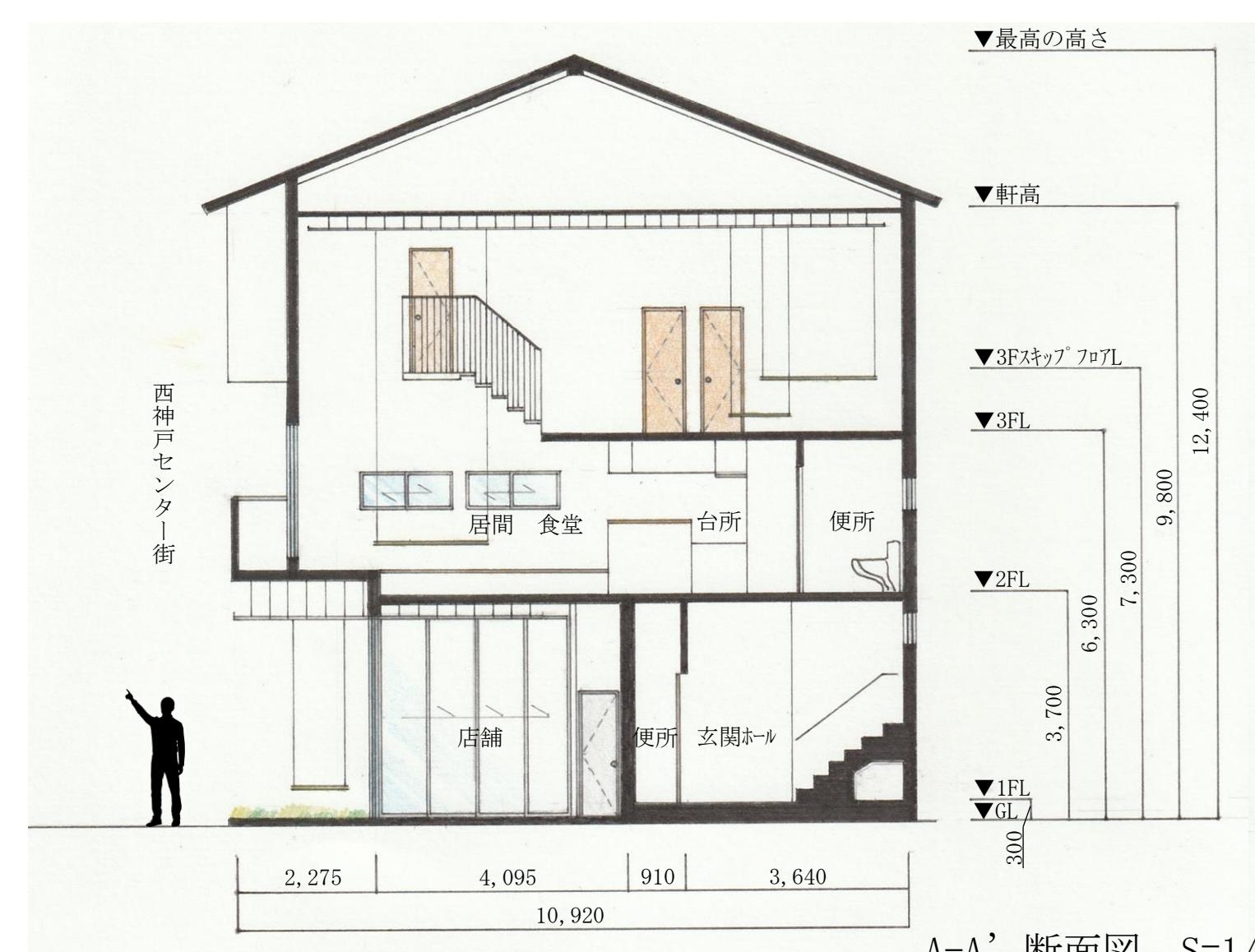
設計趣旨

西神戸センター街に地域の内外から人が集まる靴屋を作る。その目玉が天井に這わせたレールを伝って移動と高さの調節が可能な「吊る畠」だ。1階の商店街に面した店舗はセットバックしており、店前を草地として、街角に緑を提供する。営業中は吊る畠を店前に出して、訪れた客は吊る畠に腰掛け草地で試着したり、店主と語らったりする。

私たちが提案する新しい和室とは「吊る畠」によって構成される、場所も、高さも、出し入れも自由な空間だ。現代の暮らしにおいて床座の空間は必ずしも必要とは言えない。必要なときに簡単かつ即座に自由な配置で用意できる和室こそが、今の長田に新風を吹き込むことができる我认为。



航空写真を見ると、建物が密集し、周辺には緑が少ないことがわかる。



A-A' 断面図 S=1/100



北立面図 S=1/100